

## バイオリンのお稽古

子供のころ母親の強い意向で、スズキ・メソード創始者である鈴木鎮一先生の「才能教育研究会」でバイオリンを習っていた。才能教育研究会は「音楽を通じて心豊かな人間を育てる」という目的の下、楽譜を見ながらではなく、音を聞いて、感性で腕や指が自然に動いてバイオリンを弾く方法を学ぶのだが、毎週金曜日の放課後、レッスンの時間が来るのが憂鬱ゆううつだった。

不器用な上に、指が太くて弦を正確に押さえられない私に、バイオリンの適性はまったくなかった。さらに練習も嫌いでサボってばかりいたので当然、上達はみられず、先生にはあきれられるし、新しく入会してきた年下の生徒たちにもあっさり抜かれてしまった。そうして、ますます練習をしなくなっていくという悪循環だった。習い始めてから六年ほどたち、先生からバイオリンをやめていいと許可を得たときは本当にホッとした。その後、バイオリンに触れることはほとんどなくなり、今に至る。

ただ、娘たちは米国時代にスズキ・メソードでバイオリンを習ったし、めい（実姉の娘）はバイオリン専攻で音大に進学し、一時期「高嶋ちさ子 12 人のヴァイオリニスト」のメンバーとして活躍するなどした。鈴木先生の「どの子も育つ、育て方ひとつ」という教えに共鳴した亡き母親の思いは、孫たちに届いているようだ。